

医論第(85号)

(別紙様式第3号)

論 文 要 旨

論 文 題 目

Different natural courses of chronic hepatitis B with genotypes  
B and C after the fourth decade of life

(B型慢性肝炎におけるゲノタイプBとCでは30歳以上でその予後が異なる)

氏名 前城達次 



肝	炎	を	発	症	し	緩	徐	に	肝	硬	変	へ	進	展	す	る	症	例	を
認	め	た	。																
考	察	:																	
本	邦	に	お	け	る	HBV	持	続	感	染	者	は	幼	小	児	期	に	感	
染	し	、	ほ	と	ん	ど	が	HBe	抗	原	陽	性	無	症	候	性	キ	ャ	
リ	ア	を	経	て	30	歳	未	満	で	慢	性	肝	炎	を	発	症	す	る	。
30	歳	未	満	に	お	け	る	B	型	慢	性	肝	炎	の	肝	硬	変	進	展
率	は	ゲ	ノ	タ	イ	プ	B	と	C	で	差	は	認	め	ず	低	率	で	あ
り	、	絶	対	的	な	治	療	適	応	と	は	言	い	難	い	。	し	か	し
30	歳	以	上	で	ゲ	ノ	タ	イ	プ	CHBe	抗	原	陽	性	慢	性	肝	炎	
を	発	症	し	た	場	合	の	自	然	経	過	は	予	後	不	良	で	あ	り
こ	れ	ら	の	症	例	で	は	抗	ウ	イ	ル	ス	療	法	の	適	応	と	考
え	ら	れ	た	。	現	在	本	邦	に	お	け	る	抗	HBV	薬	は	そ	れ	
ら	の	薬	剤	を	使	用	し	て	も	HBV	を	完	全	に	排	除	す	る	
こ	と	は	不	可	能	で	あ	り	、	む	し	ろ	急	な	中	止	で	の	リ
バ	ウ	ン	ド	や	耐	性	ウ	イ	ル	ス	出	現	な	ど	、	使	用	す	る
場	合	に	は	適	応	を	十	分	に	検	討	す	べ	き	で	あ	る	。	
我	々	が	検	討	し	た	HBV	ゲ	ノ	タ	イ	プ	及	び	年	齢	別	の	
自	然	経	過	は	上	記	抗	ウ	イ	ル	ス	薬	の	適	応	決	定	に	有
用	な	情	報	で	あ	る	と	考	え	ら	れ	る	。						

\*要旨は3枚(1200字以内)にまとめること。

(20×20)

(別紙様式第7号)

## 論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 号 (論文博)	氏名	前 城 達 次
論文審査委員		審査日	平成19年 12月 26日
		主査教授	松崎 吾朗 
		副査教授	田中 勇博 
		副査教授	上屋 博 
(論文題目)			
Different natural courses of chronic hepatitis B with genotypes B and C after fourth decade of life			
(論文審査結果の要旨)			
1. 研究の背景と目的: 沖縄県ではHBs抗原陽性率が高いにもかかわらず、B型肝炎ウイルス(HBV)関連肝疾患における死亡率が低い。HBVのgenotypeは、日本本土では90%以上がCであるのに対し、沖縄県ではBが60%以上を占める。本論文では、B型慢性肝炎症例のHBVのgenotypeと、発症年齢並びに肝硬変への進展の関連を検討した。			
2. 研究内容: 1977年から2005年までのB型慢性肝炎145症例を対象とした発症年齢別のHBe抗原陽性率、及び6ヶ月以上経過観察可能であった121症例を対象としたgenotype別の肝硬変進展率を検討した。 その結果、30歳以下では、genotype B、C間にHBe抗原陽性率に差は認められなかったが、30歳以上ではgenotype Bに比べgenotype CでHBe抗原陽性率が高かった。肝硬変進展率も、30歳以上ではgenotype Cで有意に高かった。さらに、多変量解析の結果、30歳以上ではgenotype Cが肝硬変進展に寄与する因子として認められた。経過観察中に肝硬変に進展した症例の検討では、genotype Cでは12人中7人が30-40歳代でHBe抗原陽性慢性肝炎を発症し急速に肝硬変へ進展した。一方、genotype Bでは、8人中5人が40歳以降にHBe抗原陰性慢性肝炎を発症し緩徐に肝硬変に進展した。 以上の結果から、HBVウイルスのgenotype決定は、30歳以降の治療方針決定に有用であり、HBe抗原陽性慢性肝炎を発症したgenotype Cの症例は抗ウイルス治療の適応が高いと考えられた。			
3. 研究成果の意義と学術的水準 本研究は、HBVのgenotype Bとgenotype CによるB型慢性肝炎の予後の違いを明らかにした。この結果は、今後のB型慢性肝炎の予後の推定と治療方針の決定に重要な知見と考えられる。  以上により、本論文は学位授与に十分値するものと判断した。			

- 備考 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。  
2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。  
3 \*印は記入しないこと。